

W杯 決戦間近に

一字一筆 静岡の今

東京五輪の開催まであと500日となった3月12日、自転車競技の会場となっている県は残りの日数などを表示するディスプレイの点灯式を県庁本館前でを行い、カウントダウンが始まった。

しかし、本県にはもっと間近に迫った大イベントがある。ラグビーワールドカップ2019日本大会で、こちらは開催まで200日を切った。

4年に1度、ラグビーの世界一を競う同大会がアジアで開かれるのは初めてで、世界から20チームが9月20日から11月2日まで日本の12都市で予選・決勝ト

ーナメント計48試合が展開される。県内では小笠山総合運動公園(エコパスタジアム・袋井市)で日本対アイルランド戦(9月28日)など4試合が予定されている。

エコパの4試合の円滑な運営と、大会がもたらす様々な波及効果を県民の果実につなげようと、県ラグビーワールドカップ2019推進課と袋井市スポーツ推進課ラグビー開催準備室が2017年4月に新設された。大会機運を盛り上げる様々な企画の中には、県内小、中、高校生2万7千人をエコパに招待する計画もある。公立、私立合わせて131高校でラグビー部があるのはわずか13校(県教育委員会調べ)。「サッカー王国」の県内で少しでもラグビーの裾野を広げようとしている。

エコパのある袋井市ではホームステイ・プロジェクトも進行している。観戦に来る外国人を一般家庭で受け入れようとする企画で、100世帯を募集してすでに45世帯が応募しているという。

ラグビー用語「ノーサイド」の意味を知る人は多い。戦いを終えれば、敵も味方もなく互いの健闘をたたえ合うラグビー精神のことだ。

いじめ、児童虐待などがなくならない世相の中で、それぞれに何かが残る大会にしたい。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



ラグビーW杯PRの巨大モニュメント=袋井市、全日写連・吉川正宏さん撮影